

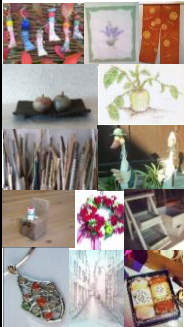


発行 小田原市栄町 2-13-3 (株) 伊勢治書店 3F ギャラリー新九郎 木下泰徳
メール配信サービスご希望の方は右記アドレスへお申込みを e-mail:kinoshita@iseji.net

新年は西相美術新春展で幕を明けた。年の初めに地域の画家が一堂に顔(絵)を揃えるのは楽しい。会員・会友のみなさんの顔が浮かぶ。残念だが鬼籍に入られた方もいる。普段何気なく展覧会を見ているが、出品できるのは元気な証である。今年も良い絵をみせてほしい。2月は節分、大雄山最乗寺の豆まき、曾我の梅祭りと春の訪れを告げる行事がつづく。スケッチにギャラリーめぐりに萌春を楽しみたい。

新九郎 2月の展覧会のご案内

近隣・友の会会員の展覧会情報

	会 期 展覧会名	見どころ	会期・展覧会名	会場
	2/5(水)~10(月) ZAKKA 暮らしにアート展 2/8(土)「お話し会」 18:00-19:00 入場無料 話し手：清水加壽代 1. 大銀杏 2. 雪おんな 他	6 booth [エトワール]刺繍・手芸・ペン画 [MK 企画]絵画・木工・フェルト・洋服・焼き菓子 [ギャラリーKay]陶・版画 [木もれ日舎]布染・彫金・アクセサリー [Hana]プリザーブドフラワー [POEM ギャラリー]額・絵画・版画・イラスト・陶	2/12(水)~16(日) ぐるうぷ碧・ちゃりてい展 2/6(木)~8(土) カラー魚拓展 2/13(木)~23(日) 春うらら、陶雛・陶人形五人展 2/18(火)~3/2(日) マルティン ファウゼン展 2/5(水)~9(日) 西相展受賞者・市民写生会 作品合同美術展	飛鳥画廊 0465-24-2411 アオキ画廊 1F 0465-24-0637 アオキ画廊 1F 0465-22-0825 すどう美術館 0465-36-0740 小田原市民会館展示室 0465-22-7146
	2/12(水)~17(月) 第15回怪作展	小田原高校の職員(元職員)と卒業生のグループ展(裏面に紹介記事掲載)	2/2(日)~8(土) 2014 南美新春展 2/25(火)~3/2(日) ワタベハルミ個展 色彩遊戯Ⅴ	女性センター 大雄山駅前 ヴェルミ 3 3FL 0465-22-3635 Galerie412 03-5410-0388 表参道ヒルズ同潤館 302
	2/19(水)~24(月) 第19回小田原市役所 写真愛好会写真展	国内外の風景、人物、スナップ等、8人の会員による写真展 約40点	1/1(水)~2/28(金) 新春小田楷個展(25回) 2/4(火)~9(日) 山下秀樹 陶展 ~3/24(月)水曜休館 ジャパニデザイン~かざりの美学	おんりーゆー 0465-72-1126 丹沢美術館 0463-83-9550 湯河原美術館 平松礼二館企画展 0465-63-7788
	2/21(金) 新九郎デッサン会	どなたでもお気軽にどうぞ! 18:15-20:45 会費 1500円 コスチューム、固定ポーズ	1/16(木)~3/18(火) 中川一政コレクション マジヨル カ壺と花の絵の世界	中川一政美術館 0465-68-1128
 	2/26(水)~3/3(月) 木下泰徳・二宮宗子 二人展	具象風景・人物画(木下)と詩情豊かなパステル画(二宮) 3/1(土)2(日) 東京タウンコーヒー研究所による カフェコーナー 3/1(土)18:00-小田原映画祭 S F C入賞作品上映会 入場無料		

東海道五十三次 箱根(箱根旧街道の石畳) 5年をかけ、足で歩いたスケッチ紀行 松野光純



三枚橋から旧道を歩き始める。この日は朝から雨であった。須雲の集落に入った頃雨が一段と強くなってきたので、近くにある鎖雲寺の本堂の軒先で1時間ほど雨宿りをさせていただいた。雨が少し小降りになったので先を急ぐことにしたが雨のため石の上が滑りやすく注意しながら歩く。石畳の道は、畑宿の集落の手前で車道と合流し、集落の終わり付近でまた石畳の道に分かれる。この石畳の入口付近に立派な一里塚がある。現在あるのは、平成10年に復元整備したものだそうだ。ここからの石畳は登りがきつく、雨と汗にまみれ大苦戦であった。一步一步喘ぎながら登っていくと、甘酒茶屋があった。ここで甘酒と力餅を食べて休憩とした。

思うことなど 横井山 泰

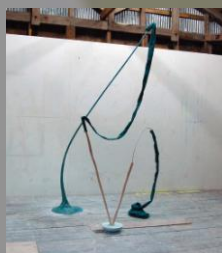


昨年末のこと、我が家に犬が来た。知人のところで生まれた仔犬である。ビーグルと柴の合いの子で、妻は同じ顔をした6兄弟から一番弱そうな奴を選んだ。名前は「ボン」メスだから「Bonne」である。大変大人しい犬でまるで鳴かない、暖かいところが好きで始終寝ている。猫のようだ。アトリエのストーブの前から動かない様子を眺めていると、急に彼女を描きたくなって来た。スケッチして観ると、犬の体を何となくしか見ていなかった事に気付く。足の関節、指、爪の数、首から胸までが意外と長い、毛並、背中。まあ作品となるとこうなるのであるが。しばらくは続きそうである。犬と言えば、絵本は長い長い色校正がようやく目途が着き、2月には出来上がる。予約を頂いた皆様、大変お待たせしました。観た事のない本になります。お楽しみに!!

2月の展示は23日から、新宿の損保ジャパン東郷青児美術館でFACE展に参加します。フワッと描いた小鹿の大作で、ボンが来る前に描いたのにボンに似ていなくもない。やっぱり縁があるようだ。今年は今までやったことの無い仕事の依頼もあり、固執はやめて発見の年にする。

第 15 回快作展

神奈川県立小田原高校の職員（元職員）と卒業生のグループ展です。毎年さまざまなジャンルの作品が出品されます。もともとは、小田原高校の職員三人でグループ展「怪画展」を開催したのがきっかけで、翌年（1998 年）、卒業生も参加して「八幡山のアトリエ展」を開催。さらにその翌年（1999 年）からは「怪作展」という名称になりました。



彫刻 對木裕里
何も知らない気持ちと、何でも知っている気持ちがこの世界を開いてくれる。存在は、普遍でも普通でも自然でもなく一瞬だけ現れる奇跡みたいなこと。加速する世界に色水を流そう。



染色 阿部落子
着物を染めるために用いられていた筒描きという技法を用いて、静かな場所をテーマにイラストを染めます。



油彩画・写真 祖父江典子
第 1 回から油彩画などで参加しています。毎回、個性豊かな作品が揃い、参加者や来場者との交流も楽しみのひとつ。今回は大学生の参加者が多いので若い感性におおいに刺激を受けたいと思います。



絵画 佐々木美直子
第 15 回怪作展は、新たに 4 人の若い世代が 参加することによって 活気に充ちた会場になることでしょう…。年代も立場も様々な仲間の今後の成長も楽しみのひとつです。



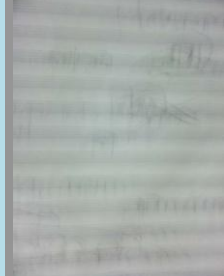
イラスト たなかむつみ
規制や要望という重力のある場所にいます。それはある意味心地よく、自由というものが身の置き所のない真っ白い宇宙に感じるほど。漂いながら、目的地に近づこうと思います。



インク画 富塚大樹
今年で 10 回目の参加となります。マネキンの原型作家として働く傍ら、絵画制作に励んでおります。宜しく願います。



イラスト 鈴木圭一
「欲望に負けて獣と化する人」
労力を費やすだけの価値がある絵を描こうと思い、「役に立つ」絵を描きました。地獄絵図のように、墮落することへの戒めとしています。



音楽 寺崎庸
子供の為のピアノ小品集
「子供の為」ということはつまり「親の為」でもあるし、むしろ「親に向けた」ものであるかもしれない。親が穏やかであることが子供の為でもあるからだ。



彫塑・小説 十佐間つくお
このグループ展ではいつもは普段やらないことをやるように心がけているのですが、今回は普段やっている小説を出します。ゆっくり読みたい方には後日データ送信します(有料)。



手書き友禪 栢沼順子
こころばらく取り組んでいた「桜」の絵まとめとして、今回はきものを出品します。手描き友禪の魅力を少しでもお伝えできればと思います。



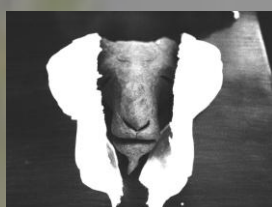
イラスト 米山光
私は 2011 年の第 12 回から参加をしていて今年で 4 回目となります。イラストレーションが好きで色々な人に共感してもらえようなものづくりを常に目指しています。



油彩画 神谷綾乃
現在、精神の居場所をテーマに油彩画を描いています。自分の精神が入り込み、棲めるような画面を心がけています。



陶 和田真実
美術大学で陶芸を専攻して制作しています。何かに窪みがあればそれは器だと、器の原点を考えました。木をイメージした質感の表現に力を入れました。



張り子 大淵貴志
山羊というモチーフを、これまで何度か陶芸作品として表現してきましたが、今回新たに和紙を素材に使い、違う表現方法ができないう挑戦してみました。



鋳造 柏木照之
今回初めて怪作展に参加させて頂きます。普段鋳物業を営んでいますが、普段作らない物に挑戦しています。うまく形になると思いますが(汗)



鉛筆画 水出和明
題怪作展 怪作展に題す
尊藝不尊名 藝を尊んで 名を尊ばず
究工日勵精 工を究めて 日びに励精
破天荒地美 破天荒地の美は
自怪作中生 怪作の中自り生ず
(下平八庚韻)



四コマ漫画・日本画 石田葵
日本画とオリジナルキャラクターや 4 コマ漫画制作をしています。作風が全然違いますがお楽しみください。

一月のこころ
箱根の小涌谷、小涌園の向い側に昨年十月岡田美術館が開館した。美術館の壁面一杯に描かれた巨大な風神雷神図が出迎えてくれた。宗達を模して壁面に拡大したものかと思いきや、日本画家福井江太郎氏の壁画「風の刻（かぜ・とき）」という作品だった。建物「風の前面」には源泉掛け流しの足湯。屋根付き足湯に浸かりながら巨大な作品をゆっくり楽しむことができる箱根らしいおもてなしだ。雪の残るエントランスを行くと、笑顔の女性が出迎えてくれた。今までの美術館では経験のない案内に戸惑うほどだ。セキュリティの高さもけた外れだ。ケータイ、デジタルカメラはロッカーに入れ、空港張りの手荷物チェックを受けての入場となる。展示室は155階まで5000㎡に及ぶ。人感センサーの自動ドアを入ると広々とした展示室が広がっている。一階展示室には日本・中国・韓国の陶磁器の名品や青銅器・土偶・埴輪が並ぶ。床は落ち着いた青の絨毯。靴音を気にせず鑑賞できる。ガラスケースの中の展示作品が実に見やすい。色、文様、表情など細部までガラスがあることを忘れるほどクリアに観ることができゆつくりと楽しむ事が出来た。また、日・英・中・韓・子ども版の液晶タッチパネルの解説など、鑑賞者目線での展示設備の素晴らしさに感心した。一階に入ると前方の壁面に横山大観の水墨画「霊峰一文字」が掛かる。縦約1m×横約9mの巨大な巻物だ。絵は斜めに立てかけられ距離をとって一目で見られるように展示されている。富士の山前に黒雲がたなびく壮大な空間が広がる。画面に近づいてみると、大胆な筆さばきだ。さらに階を進めると、伊藤若冲のアブストラクトな雄鶏にうなる。雪村、狩野探幽、円山応挙、長沢蘆雪と続き、俵屋宗達、尾形光琳、酒井抱一と好きな琳派の作品が贅沢に並ぶ中に「武蔵野図」があった。六曲一隻の屏風である。画集で繰り返し見て惹かれていた絵である。まさかここで出会えるとは思わなかった。江戸時代の一面のすすきの原の武蔵野。すすきの原の中に月が描かれている特徴的な絵だ。それほど入館者も多くなく、ゆつくりと落ち着いて鑑賞する時間を過ごすことができた。MOA美術館のコレクションには及ばないであろうが、日本・東洋の美術品を十分に堪能できる美術館の開館で、箱根の魅力がまた増すことになるだろう。本